

しやみせん 三味線

てん いしむらおうみ
伝・石村近江作

この三味線(奥側展示)は、胴に姫小松の文様が蒔絵で描かれています。
棹が細い特徴から江戸時代初期の三味線であることが推されます。
「一の系(演奏時に上にある系)」の上駒から外れていることから、
「サワリ」が装備されていますが、過去に上駒が付け替えられた
痕跡も認められます。
水野佐平邦楽器コレクションの名品です。石村近江については調査中のため、
当館の展示では「伝」を付しています。

しやみせん めい しぐれ 三味線 銘「時雨」

てん いしむらおうみ
伝・石村近江作

この三味線(手前側展示)の胴には紅葉の模様、海老尾(棹の先端)の裏側に紅葉と、「時」「雨」の文字が金蒔絵で描かれています。
この楽器には、現在の三味線独特の構造「サワリ(一の系を上駒からはずし、独特な音色を発する工夫)」が装備されていないこと、
棹が細い特徴から江戸時代初期の三味線であることが推されます。また、胴の内側に「綾杉(かな目)」があることなどから、水野佐平邦楽器コレクションの中で名品・古近江作として伝えられています。
三味線製作者の家系として著名な石村近江は、四代までを「古近江」と呼び、その作品は三味線の黎明期の名品として珍重されました。石村近江については調査中のため、当館の展示では「伝」を付しています。